

# ゴールデンウィーク、最後の八ヶ岳

## (報告) Kon

◎山行期日：2017年5月6日(土)～7日(日)

◎メンバー：Kon 1名

ゴールデンウィークの最後の土、日の駆け込み的な山行。この時しか都合がつかず、また、週間予報では6日は天候が良くないとの予報もあり、日帰りのハイキングでもと思っていたところ、前日に前線の影響は軽微で天候はそれほど崩れないとの予報に変わり、急遽、比較的近く、残雪もまだ期待できる八ヶ岳へ。

### 5月6日(土)

八王子から乗車した特急電車は思いのほか座席は空いている。車窓からの八ヶ岳は雲に覆われ天候や雪の状態はうかがい知れない。茅野駅に着き、美濃戸口行バスを15分ほど待つ。客は6人、ザックを背負った乗客は他に一人である(12:20)。

美濃戸口(12:57)に着き、バスを降りると冷やりとする霧のような雨が頬に当たる。備え付けの登山届に赤岳から硫黄岳までのルートを書き込み投函する。雨が多少気になるが、これ以上悪化する様にも見えず、雨除けに帽子だけかぶり美濃戸口を出発(13:15)。

美濃戸山荘(14:06)までに車一台とすれ違ふ、美濃戸山荘から行者小屋までの間で下山してくる2名の登山者と出会う。美濃戸口から3時間ほど歩き、そろそろと思う頃に目を上げると、行者小屋が見えてくる。小屋の近くに2張りのテント、外のテーブルの席には誰もいない(16:20)。

行者小屋に入り、宿泊手続きをする間も人気はなく、2階に案内されて、バラバラの区画に3人。今日の宿泊者は4人らしい。夕食までは少し時間があり、外の様子を見に行く。相変わらず雲に覆われ様子はわからない、今日は一度も山は見られず、回復の兆しも見えない。

18:00 夕食。1階食堂、真ん中のテーブルに4人客が揃い会食、ビーフシチューとポトフである。3人客の内の一人は、茅野市に息子さんが転勤となり、連休はそこを起点にして近辺の山に登り、八ヶ岳が最後とのことであるが、雪山は初めてなので明日はここで下山するとのこと、他の一人は、硫黄岳に登りに来たが赤岩ノ頭への斜面が雪崩やすいとの情報を得て赤岳に転進してきたが、登るかどうかは状況を見てとのこと、最後の方は、時間的な余裕もあるので、明日はゆっくり赤岳天望荘まで上がり宿泊するとのこと。外は小屋内に雨音が響いてくるほどの様相、消灯までの間ストーブ囲み談議(20:30)。

### 5月7日(土)

5:00 起床、天候は良い。6:00 朝食までの間に、すぐに出発できるように荷をパッキング。朝食の卵料理などを食べ、昨日の3人客とも食後に別れ、先行して出発することに(6:31)。

小屋前のベンチでアイゼンを着ける。文三郎道が樹林帯を経て赤岳の稜線に向けて白く雪道が伸びている。寒さはそれほど感じないが、雪はアイゼンを効かせて歩くほどには締まっている。歩きだしは体調を確認しながら、足にアイゼンを馴染ませながら、意識してゆっくり歩く。

文三郎道も上部に来ると風も強い。赤岳主稜の取り付け付近で2名の登山者と出会う。赤岳天望荘には宿泊者が3名しかいなかったこと、稜線上はとにかく風が強いことなどを聞く。赤岳西壁下の雪斜面

を不意の風に注意しながら、登山道では深く切れ落ちている雪渓に注意しつつ赤岳山頂へ（8：35）。

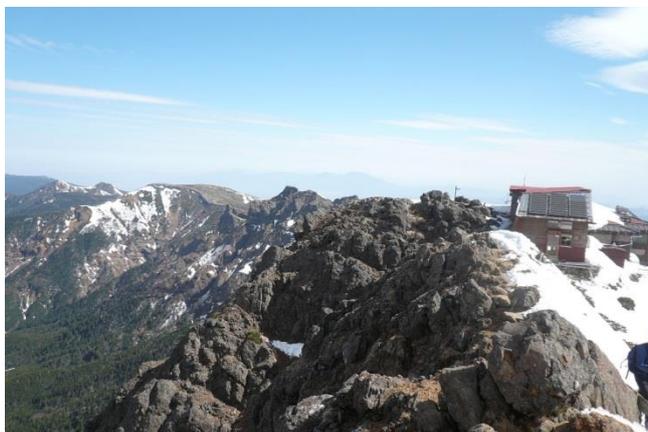
山頂は、展望も良いが風も強い。長く一人留まる気になれない。写真を撮り出発しようと思っている頃、地蔵尾根経由で一人登ってくる。明日は仕事なのでなるべく早く下山するとのこと、頂上で交差する様に別方向に下る。



（赤岳から権現岳方面を望む）

赤岳からの下りも風に押され立ち止まりつつ天望荘まで来る（9：05）。しばらく休憩しながら、硫黄岳まで縦走しようかを迷う、横岳へせり上がる雪斜面を見ながら、風の影響も少ないように思え、風でバランス崩すような斜面でもなさそうなことから行くことにする。

風はやはりそれほどでもなかったが、雪は腐り気味で、時折、足が大きく沈み込み、引き抜くのには苦勞する。それでも階段状に登れるので着実に高度を稼ぐことができる。



（赤岳から硫黄岳方面を望む）

横岳の稜線に出る。西側は風が強いが雪はなく、東側は風が弱いが残雪が残り足を取られる。稜線をジグザグに回り込みながらも三叉峰、横岳奥ノ院へ（10：35）。硫黄岳のなだらかな斜面が視界に広がる。ケルンに導かれるように山頂までの道が続く。赤岩ノ頭には雪がまだ多く残り、赤岳鉱泉へのトレースはここからは確認できない。横岳を基点に南・北方向の写真を撮り硫黄岳に向かう。



←横岳から赤岳・阿弥陀岳方面を望む。後方は北岳、甲斐駒ガ岳、仙丈岳。

下りの核心部を過ぎ、これで風は強いが危険な箇所はないと思いつつ、鞍部に近づいたところで強烈な風に見舞われ、足を踏み出してバランスを取ろうにもアイゼンが岩に引っかかり、そのまま倒される。アイゼンを外すことにする、雪はない。足元が軽くなり不意な風にも対応できる。ケルンを風除けにしながら硫黄岳山頂へ（11：44）  
風で写真を撮る意欲もそがれ、美濃戸口からのバスの時間も気になり、早々に下山にかかる。赤岩ノ頭に登山者が一人登ってくる。雪の状況を聞くと赤岳鉱泉まで雪道が続くとのこと。

横岳から硫黄岳方面↓



とはいえ、雪はクラストとしておらず、急斜面でもないことからアイゼンは使用せず下山する。軟雪に足を取られながら樹林帯の雪道を抜けて赤岳鉱泉へ（12：45）。

赤岳鉱泉で行動食をとり、アイゼンや衣類などのパッキングをやり直して出発。後は美濃戸口まで下山するだけとぼんやりと歩いていると、赤岳鉱泉に向かう Tsuka さんに声をかけられ、後から OT さん、Aka さん。連休の駆け込み的な山行となりご一緒できなかったのですが、次はどこかの山行でと思いつつ美濃戸口に下山する。

#### 《記録》

5/6 八王子駅（10：08）—茅野駅発（12：20）—美濃戸口発（12：57～13：15）—美濃戸山荘（14：06）—行者小屋（16：20）

5/7 朝食（6：00）—行者小屋発（6：31）—赤岳（8：35）—三叉峰（10：18）—横岳奥ノ院（10：35）—硫黄岳（11：44）—赤岩ノ頭（11：58）—赤岳鉱泉（12：45）—赤岳山荘（14：10）—美濃戸口（14：50～16：20）—茅野駅発（17：04）—八王子駅着（18：44）